岩手県立大学
Iwate Prefectural University

岩手県立大学年報

令和2年度

Iwate Prefectural University
Annual Report 2020

岩手県立大学
Iwate Prefectural University

「自然」、「科学」、「人間」が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す。

（岩手県立大学「建学の理念」）

岩手県立大学の沿革

1951年4月	岩手県立盛岡短期大学開学
1990年4月	岩手県立宮古短期大学開学
1998年4月	岩手県立大学開学。初代学長に西澤潤一氏が就任
2000年4月	大学院を開設［ソフトウェア情報学研究科博士前期課程・同後期課程／総合政策研究科博士前期課程］
2002年4月	大学院を開設［看護学研究科博士前期課程／社会福祉学研究科博士前期課程／総合政策研究科博士後期課程］
2004年4月	大学院を開設［看護学研究科博士後期課程／社会福祉学研究科博士後期課程］
2005年4月	公立大学法人として新たにスタート。谷口誠学長が就任 第一期中期目標・中期計画期間スタート 岩手県立大学地域連携研究センター設置
2006年4月	盛岡駅西口にアイーナキャンパスを開設 共通教育センター設置
2009年4月	中村慶久学長が就任
2011年4月	第二期中期目標・中期計画期間スタート いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）設置 地域政策研究センター設置
2013年4月	高等教育推進センター設置
2014年4月	共通教育センターを高等教育推進センターへ統合
2015年4月	鈴木厚人学長が就任
2017年4月	第三期中期目標・中期計画期間スタート

“いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”

［未来を切り拓く力を高める教育］
［未来創造に資する地域貢献］
［教育と地域貢献の根幹となる高い研究力］

岩手県立大学年報−令和2年度−　目次

第三期中期目標･計画及び令和2年度業務実績 …… 03
令和2年度アカデミックインパクトの活動状況 …… 05
令和2年度地域貢献の活動状況 …… 07
令和2年度研究の活動状況 …… 09
令和2年度教育の活動状況 …… 13
令和3年度入学及び令和2年度卒業･就職の状況 …… 15
　令和3年度の入学者選抜の状況 …… 15
　令和2年度の卒業者及び就職の状況 …… 17
令和2年度財務状況 …… 19
組織図 …… 21
役職員 …… 22

WITHコロナ時代に対応した岩手県立大学の取組

国の方針や全国的な感染状況を踏まえ、本学でも前期の授業開始時期を遅らせたり、オンライン授業を行うなどの対応を行ってきました。「実学実践」を基本的方向に掲げる本学で、特に検討を要したのは実践的な学びや資格取得のための学外実習の実施についてです。

この他、本学が行ったコロナ禍における主な取組を抜粋して紹介します。

コロナ禍における主な取組

- **3月** **学位記授与式の中止**（3/25滝沢、3/18宮古）
- **4月** **入学式の中止**（4/3滝沢、4/6宮古）
  授業開始の二度にわたる延期
- **5月** **全ての科目の遠隔授業を開始**（5/18）
- **6月** **全ての科目で対面授業を開始**（6/22）
  「公立大学法人岩手県立大学修学支援給付金」を設立
  （申込み:第1回6/29〜7/20、第2回11/2〜11/16）
- **7月** **「岩手県立大学未来創造基金」への協力依頼を呼びかけ**
  「岩手県立大学新型コロナウイルス感染症対応指針」策定
  デジタルオープンキャンパスを開催（7/10）
- **10月** **滝沢キャンパス大学祭「鷲風祭」中止**（10/31〜11/1）
- **11月** **「インフルエンザ予防接種補助事業」**（実施 11/19〜1/29）
- **令和3年3月** **学位記授与式を挙行**（3/18滝沢、3/19宮古）
  ※参列者を限定したり、会場を分散するなどして、感染対策のため式典の一部を変更して実施

教育

感染防止を図りながら実習を実施

新型コロナウイルス感染症の感染防止を図りながら、学生の学びを確保するため、資格取得のための実習を学外から学内への振り替えたり、オンラインを活用したりする等、工夫を凝らして実施しました。

研究

総合政策学部生が県内事業者向けに新型コロナウイルス感染症の影響調査を実施

東日本大震災で被災しグループ補助金を受けた県内事業者が、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい経営状況に直面していることが、学生が行ったアンケート調査で明らかになりました。

この調査は、経済実習の授業の一環で総合政策学部の桒田但馬教授と同学部の3・4年生18人が実施しました。

大学運営

給付金制度や「なんでも相談窓口」で学生を支援

経済的に困窮し修学困難となる学生を支援するため、「公立大学法人岩手県立大学修学支援給付金」を設立し、支給要件に合致する学生を対象に一人当たり5万円を給付しました。また、学生からの学業や心身の不安に対する相談を一括して受け付ける「なんでも相談窓口」を開設しました。

その他

学生のための支援金や食料・物資の寄贈

県内企業様から、学生のための支援金や食料・物資のご寄贈をいただきました。このほか個人の方からも、マスク等のご寄贈や「未来創造基金」に多額のご寄付をいただきました。

（寄贈や寄付をいただいた方のご紹介（一部））
- 株式会社アイシーエス 様
- 新岩手農業協同組合（JA新いわて） 様
- 株式会社ツガワ 様
- 社会福祉法人成仁会 様

12月

アイーナキャンパスで「SDGsカードゲーム」を活用した公開講座を開催

アイーナキャンパスを会場に「アイーナSDGs講座」を開催しました。12月の講座では、総合政策学部の渋谷晃太郎教授が講師になって、「SDGsカードゲーム」を活用したワークショップを行いました。

この公開講座では、SDGsについて知ってもらい、県内企業や行政機関にも取組が広がっていくことを目的として、導入部分を初級向けに実施しました。

10月

ボランティアサークル「風土熱人R」岩手県知事表彰

ボランティアサークル「風土熱人R（ふうどねっとあーる）」が、第73回岩手県社会福祉大会において、活動の功績を認められ、岩手県知事表彰を受けました。

風土熱人Rは、2007年新潟沖中越地震の支援を発端に設立され、三陸の漁業支援やフードバンクいわての活動支援、内陸避難者交流会などの活動を行っています。

1月

学生考案の原木シイタケ料理を盛岡駅ビル内のレストランで提供

県産原木干しシイタケの良さを消費者に知ってもらうことを目的に、総合政策学部の学生が料理による販売促進活動を企画し、盛岡短期大学部の学生がレシピを考えた干しシイタケを使ったメニューが、盛岡駅内ビルの「みのるダイニング」で提供されました。メニューは「原木乾ししいたけの肉詰め」「原木乾ししいたけ入りグラタン」「原木乾ししいたけ入りハンバーグ」の3種です。

第三期中期目標・計画及び令和２年度業務実績

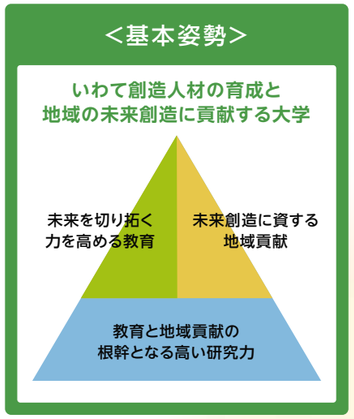
第三期中期目標・計画

“いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学”へ

岩手県立大学では、平成29年度から令和4年度までの6年間の第三期中期目標期間において、東日本大震災津波からの復興とその先を見据えながら、**「ふるさとの未来を拓き、未来を担う人材を育む学びの府」**として、第三期中期目標に掲げられている**「いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学」**を目指します。

この目標の実現に向けて、開学以来取り組んできた**「地域に根ざした実学・実践重視の教育研究活動」**に加え、開学20周年（平成30年）を契機とした教育研究組織の見直しとともに、**社会環境の変化や地域社会のニーズに対応した教育研究活動や地域貢献活動に取り組んでいきます。**

第三期**中期目標**



第三期**中期計画**における「重点的に取り組む事項」

第三期中期計画では、中期目標を達成するために教育、研究及び地域貢献の各分野で重点的に取り組む事項を掲げ、全学を挙げて取組を展開しています。

教育
全学的な教学マネジメントの下、各学部の特性に応じた「いわて創造人材」を育成

POINT
いわての「未来を創造する人材」を育成するため、産業界・地域等との連携の下、いわてをフィールドとした地域志向教育の充実と学生の主体的学修を促す能動的学習の推進

研究
教育と地域貢献を支える研究活動の強化

POINT
いわての「豊かなふるさと」の創生を支えるための戦略的な研究活動の強化

地域貢献
地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応

POINT
いわての「グローバル化」を促進するための多様な文化や価値観の理解促進支援ネットワークの構築

令和２年度の主な業務実績

県地方独立行政法人評価委員会からは、年度計画に掲げる45項目のうち、AA評価(特筆すべき進行状況にある)が5項目、A評価(計画どおり進んでいる)が36項目、B評価(おおむね計画どおり進んでいる)が4項目とされ、「おおむね計画どおり進められたと認められる」との評価結果が示されました。

具体的には、アセスメント・ポリシーの構築、学生への経済的支援等の充実、企業等との共同研究基盤の構築等に成果がありました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種行事の中止、キャンパス等の設備更新の延期が生じ、令和３年度以降、感染対策を講じながら実施していくこととしています。

教育

全学的な教学マネジメントの下、各学部の特性に応じた「いわて創造人材」を育成

- ●各学部及び基盤教育のアセスメント・ポリシーの策定
- ●新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた国及び本学独自の給付金事業の実施
- ●ソフトウェア情報学部における学生面談記録システムの改修・正式運用
- ●いわてで働こう推進協議会との共催で、オンライン業界研究セミナー「オシゴト展覧会」を開催(参加学生191人)、企業を対象としたインターンシップセミナーを実施(登録企業330社へ紹介)

研究

教育と地域貢献を支える研究活動の強化

- ●国や民間企業等の公募情報の教員への情報提供、支援チームによる応募書類作成に係る教員への支援
- ●盛岡ターミナルビル(株)との包括的連携協定、滝沢市及び(株)エー・アール・シーとの連携・協力協定の締結による企業との共同研究基盤の構築
- ●盛岡市との共同研究の表彰(都市調査研究グランプリ「政策基礎部門最優秀賞」)
- ●県と連携し、北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトを推進

地域貢献

地域の「知の拠点」として、地域の課題解決とグローバル化に対応

- ●地域協働研究(7課題)の実施による地域人材の育成、戦略的研究プロジェクト(6研究)の推進、若手技術者、学生向け高度技術者養成講座(15講座、参加者136人)等の開催
- ●教職員及び学生ボランティア活動への活動経費等の支援(延べ4グループ、47人、109千円)、復興支援活動の取組をまとめた「東日本大震災津波岩手県立大学の復興支援」を学外ホームページに掲載

業務運営等

教育研究活動を支える自主的・自律的な法人運営

- ●新型コロナウイルス感染症の影響下において、危機管理対策本部会議を実施し適切な大学運営を検討
- ●より安全な対面授業の実施のため、学生及び教職員に対する感染防止対策を徹底
- ●研究倫理の意識向上のための研究費コンプライアンス研修会や、ハラスメントの正しい知識と意識啓発のための学内研修会を開催

国連アカデミック・インパクト

概要

本学は、2019年5月、国連アカデミック・インパクト（以下「UNAI」という。）に加盟しました。

UNAIは、各大学が社会貢献を進めながら、国連と世界各国の高等教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムです。

本学は、UNAIに関連する様々な教育研究、地域貢献活動を行っていることから、UNAIの10原則のうちの4原則に参加しています。

原則6：人々の国際市民としての意識を高める
原則8：貧困問題に取り組む
原則9：持続可能性を推進する
原則10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く
【参考】国連アカデミック・インパクトJapanのウェブサイト
これらの4つの原則は、本学の建学の理念と合致しています。

実績報告書

◆ 活動報告について

UNAIの加盟大学は、UNAIの10原則のうち、各年度に少なくとも1つの原則に係る活動を実施し、UNAI事務局に報告することとされています。

◆ 岩手県立大学の活動報告書

本学でも2020年度のUNAIに関連する活動について、活動報告書を取りまとめました。

活動報告書は本学ホームページで公開しています。

岩手県立大学のホームページトップ画面から、「国際交流」のページを参照。

1 学生運営の子ども学習室

キッズボランティアサークル「どろんこ隊☆ミライ」

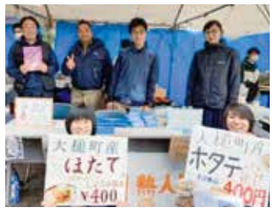
小中学生を対象に、学習支援活動を行うサークルです。学ぶことの楽しさを知ってもらうため、子ども自身のやってみたいことを尊重しながら、自学自習をサポートしています。また、子どもに安心してもらえる居心地の良い場所を提供しています。

学生運営の子ども学習室の様子

2 ボランティア活動の風を巻き起こそう

ボランティアサークル「風土熱人R（ふうどねっとあーる）」

2007年の新潟県中越沖地震の支援をきっかけに結成したサークルです。地域住民とのつながりを大切に、現在は、東日本大震災津波の被災地の復興支援活動のため、地域の防災訓練の運営、子ども食堂、フードバンクへの支援などの活動を行っています。



「風土熱人R」の活動の様子

3 国際遠隔授業（米国ノースカロライナ大学ウィルミントン校:UNCW）・オンライン海外研修（米国ワシントン州立大学：WSU）

看護学部

SDGsの目標13「気候変動」に関連し、地球温暖化と健康問題に着目し、「熱中症リスク」を抑制するための対策について発表、意見交換を行いました。

また、SDGsの目標12「持続可能な消費と生産」、目標13「気候変動」に関連し、水資源と環境、健康の関係をテーマに日本の対応、解決策等について発表、意見交換を行いました。

4 国際看護論演習「SDGｓ解決策を考える」

看護学部

看護学部の国際看護論演習では、国際的な視野に立ち、学生が主体となって保健・看護上の課題を見つけ、看護職の役割について考察できることを目標に掲げています。その中で、国連の持続可能な開発目標(SDGs)をベースとしたテーマを選び、看護学生だからこそ考える健康面に着目した解決策について、グループワークを中心に取り組みました。

5 副専攻の紹介：「地域創造教育プログラム」と「国際教養教育プログラム」

高等教育推進センター

本学では、教養教育（リベラル・アーツ）の一環として、次の2つの「副専攻」を設置しています。

（1）「地域創造教育プログラム」は、地域社会の現状を知り、課題設定・解決のための知識・スキル等についてフィールドワークを通じて実践的に学ぶプログラムです。修了者には、「地域創造士」の称号が授与されます。

地域創造教育プログラムの様子

（2）「国際教養教育プログラム」は、グローバル化する世界において、多文化を理解し、異文化共生の可能性を考え、実現するための語学をはじめとした技術、知識を学ぶプログラムです。修了者には、「国際教養士」の称号が授与されます。

6 学生主体のジェンダー平等をめざした活動 ～いわて男女共同参画フェスティバルへの出展～

盛岡短期大学部国際文化学科、学生団体Marble（まーぶる）

学生団体Marbleは、ジェンダー平等を目指す活動を行うサークルです。学生団体Marbleと盛岡短期大学部国際文化学科の「ジェンダー論」履修者が「いわて男女共同参画フェスティバル」にパネル等の出展を行いました。

「いわて男女共同参画フェスティバルのパネル展示

7 岩手県立大学における文化理解の内省的で共感的な概念を促すための努力

盛岡短期大学部

国際文化学科では、文化的行動を「正しい」と「間違っている」、または「正常な」と「奇妙な」ものとして見るのではなく、より微妙な意見や行動の違いを情報に基づいた他者への共感のアプローチを発展させることで、不寛容の解消と異文化理解の促進を図ることとしています。

8 多文化視点ピラミッドを活用して原則10を促進すること

盛岡短期大学部

国際文化学科では、UNAIの原則10「異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く」ために、自分自身の中にも多様性があること、どの文化の間でも普遍的な概念があり、世界中の人々との共通点があることを、学生自身が気付き、考える学習環境を提供しています。

9 海洋プラスチック等海岸漂着物の市民参加による調査手法の開発に関する研究

総合政策学部、ソフトウェア情報学部
（岩手県環境生活部資源循環推進課との協働）

海洋プラスチックごみ対策として、岩手県沿岸の海岸漂着物の状況把握のため、市民による海岸漂着物の調査を可能にするスマートフォン対応の情報システムを開発しました。また、岩手県沿岸の小学校を対象に、環境教育プログラムを実施しました。

環境教育プログラムの様子

海岸漂着物調査位置

令和２年度地域貢献の活動状況

新たな価値を創造し、地域の未来に貢献する大学を目指して

北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトの推進

「未来創造に資する地域貢献」の取組を進めている本学では、平成31年４月に岩手県と「北いわての地域課題の解決及び産業振興に向けた連携協力協定」を締結し、いわて県民計画（2019～2028）に掲げる「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト」を共同で推進することとしました。そこで本学では、研究・地域連携本部に「北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト推進センター」（センター長：研究・地域連携本部長兼務）を設置し、北いわての地域課題の解決や産業振興につながる調査・研究、人材育成などに取り組んでいます。

シンポジウムでのパネルディスカッションの様子

令和２年度は、岩手県との共同研究や受託研究のほか、新たに創設した学内研究費により北いわてをフィールドとした研究活動を展開するとともに、北いわての将来を担う人材育成を目的に、中高生を対象とした出前講座を実施しました。３月にオンライン開催したシンポジウムでは、それらの取組状況を発信したほか、北いわての人材育成における本学の役割をテーマにパネルディスカッションを行い、本学への期待や今後の展望について、関係者と意見交換しました。

県立一戸高等学校での出前講座の様子

地域政策研究センターによる研究の推進及び市町村への支援

「実学・実践重視の教育・研究」を基本的方向の一つとする本学では、県民のシンクタンク機能のさらなる充実強化を図るため、平成23年に地域政策研究センターを設置しました。センターでは、県民が抱える課題・ニーズに「地域目線」で向き合い、多様な専門分野の研究者が、自治体やNPO、企業との協働により、地域課題を解決するための研究や市町村の地方創生の取組支援を行っています。

盛岡市と共同で設置した「盛岡市まちづくり研究所」における共同研究では、令和２年度に実施された「第11回都市調査研究グランプリ（CR-1グランプリ）」で最優秀賞を受賞しました。

● 地域協働研究の推進

本学では、県内の自治体、地域団体、企業等からの提案を受け、地域課題の解決に向けた共同研究に取り組んでおり、課題解決プランの策定を支援する「ステージⅠ」（研究期間：単年度）と、研究成果を課題解決に応用するための活動を支援する「ステージⅡ」（研究期間：２か年度）を設け、それぞれの課題・ニーズに対応した研究活動を展開しています。令和２年度は、ステージⅠで32課題、ステージⅡで７課題の研究に取り組みました。

● 市町村の地方創生への取組支援

本学では、平成27年度より、市町村の地方創生の取組を支援しており、まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定・推進や、地方創生を担う市町村職員の政策法務能力向上等の支援に取り組んでいます。令和２年度は、20市町村の有識者会議等に教職員を委員等として派遣し、うち６市村には併せて総合戦略掲載事業等への指導・助言等を行ったほか、４市町を対象に政策法務に係る相談や研修対応等を支援しました。

公開講座等各種講座の開催

毎年夏に滝沢キャンパスで開催している公開講座は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しましたが、県民の皆様への学びの場の提供と研究成果の還元を図るため、前年度に開催した公開講座の内容を、ケーブルテレビの特別番組として放映したほか、動画配信サイトで公開しました。各学部等は、アイーナキャンパスを拠点に、それぞれの専門性を生かした多様な講座等を開催し、令和２年度は、全71講座に1,201人の参加がありました。

また、若手技術者・学生を対象に、高付加価値・高効率型ものづくりに不可欠な先端的技術をテーマとした高度技術者養成講習会を15講座開催し、136人の参加がありました。

高度技術者養成講習会の様子

Rubyプログラミング教室の開催

児童生徒のICT活用スキルの向上と課題解決能力の育成に資するため、滝沢市立滝沢第二中学校の科学技術部員を対象に、Rubyプログラミング教室を実施しました。同部は、プログラミング教室の成果を「中高生国際Rubyプログラミングコンテスト2020 in Mitaka」のゲーム部門に応募し、２作品が一次審査を通過。３月に行われた最終審査会において、うち１作品が、第２位に相当する優秀賞を受賞しました。

Rubyプログラミング教室の様子

◆戦略的研究プロジェクトの推進

大型・学際連携型外部研究資金の獲得を目指す、本学の「顔となる研究プロジェクト」として平成30年7月に創設。本学の特徴を生かした研究を促進するとともに、本県の産業・経済の活性化、生活レベルの向上、イノベーションの創出に貢献するため、令和2年度は、継続中の6つの研究チームが研究プロジェクトに取り組みました。

◆全学競争研究費による研究の推進

将来的に大型・学際連携型外部資金の獲得を目指す研究を支援するため、平成29年度に創設。「震災復興」、「人口減少対策」、「地域産業振興」、「学際分野開拓」に関するものを優先採択課題とし、令和2年度は7件を採択しました。

◆外部研究資金の獲得状況

令和3年度科学研究費への応募は106件、採択は18件で、採択率は17.0%（前年度21.6%）でした。また、令和2年度の共同研究、受託研究等及び奨学寄附金の獲得件数は合計53件（同9件減）、受入金額は60,143千円（同41,880千円減）でした。

◆看護実践研究センターの取組

県民のQOLと岩手の看護の質の向上に寄与するため、看護職の継続教育等を実施。令和２年度は、「岩手県新人看護職員研修」に34施設から90名、各教員の専門性を活かした「専門職研修事業」には８種類に184名の参加がありました。また、県内病院に出向いて講師を務める「研究指導」を10施設で実施しました。特に平成23年度から10年目となった岩手県受託事業の新人看護職員研修は、途中新型コロナウイルス感染症の影響で開催継続が危ぶまれましたが、病院からの強いニーズにより遠隔配信に変更して開催しました。

病院看護部よりコロナ禍での開催に感謝されるなど、センターの取組は高い評価が得られています。

岩手県新人看護職員研修の遠隔配信の様子

地域協働研究

地域協働研究は、地域の諸団体と本学教員が協働で、地域が抱える課題の解決に取り組む研究です。地域政策研究センターの取組として、平成 24 年度に創設されました。これまで取り組んできた研究課題は、教員提案型・地域提案型あわせて 300 課題を超えます。

平成 29 年度からは、研究成果をできるだけ早く地域社会に届けるしくみとして、下記のとおり研究費の制度を見直しました。

詳細はこちらから

岩手県立大学
ホームページ内
地域協働研究
関連ページ

〔ステージⅠ〕課題解決プラン策定ステージ

地域課題を解決する方策を策定するための調査研究を支援。

研究費：1課題当たり上限 30 万円（研究期間：単年度）

〔ステージⅡ〕研究成果実装ステージ

地域課題を解決するために実施した本学の調査研究の成果を実際に地域に活用する活動を支援。

研究費：1課題当たり上限 100 万円 / 年（研究期間：2か年度）

≪ステージⅠ:課題解決プラン策定ステージ≫

※研究代表者 五十音順

看護学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	公的サービスに依存しない介護予防個別プログラムの構築	渡辺　幸枝	(有)ホームセンター仙台	令和2年4月～令和3年3月

社会福祉学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	産・学・地域連携による「注文を間違えるカフェ(仮称)」運営方策検討調査	柏葉　英美	(株)テムテック研究所・滝沢市認知症の人と家族の会	令和2年4月～令和3年3月
2	多様な家庭の未就学児の親子を対象とした読書支援プログラムの開発	櫻　　幸恵	北上市立中央図書館	令和2年4月～令和3年3月
3	障害児と保護者によるお弁当宅配を契機とした地域見守り体制の構築―民間企業による地域共生社会づくりの一環として―	瀧井　美緒	(有)まごのて	令和2年4月～令和3年3月
4	地域介護福祉事業者での新技術を活用した現場の効率化と働き方改革－要件定義の抽出とプロトタイプ開発を意識したモデル構築	宮城　好郎	二戸保健福祉環境センター・二戸地域振興センター・(福)いつつ星会・(株)航和	令和2年4月～令和3年3月

ソフトウェア情報学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	小中学校児童生徒のプログラミング的思考の育成へ向けた取組について	市川　尚	滝沢市教育委員会	令和2年4月～令和3年3月
2	三陸鉄道における風水害リスク・ファイナンス分析手法の適用可能性検討	大堀　勝正	三陸鉄道(株)	令和2年4月～令和3年3月
3	スキーパスのICカード化による中小規模スキー場活性化システムと運用手法の研究	蔡　　大維	岩手高原スノーパーク	令和2年4月～令和3年3月
4	自転車トレーニングシステムを活用した町の活性化	佐藤　永欣	紫波町・(株)テーケィアールマニュファクチャリングジャパン	令和2年4月～令和3年3月
5	リバービューと3次元モデルを活用した河川の多面的管理・活用	土井　章男	西和賀淡水漁業協同組合	令和2年8月～令和3年3月

総合政策学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	地域と企業が共創する産業振興のための地域状況調査について	市島　宗典	滝沢市	令和2年4月～令和3年3月
2	地域の歴史文化遺産を活用した持続可能な住民活動意識の醸成	窪　　幸治	紫波歴史研究会	令和2年4月～令和3年3月
3	二市町村合併にみる自治の成果と限界に関する調査研究	桒田　但馬	岩手県	令和2年8月～令和3年3月
4	県内中小企業におけるデザイン活用に関するモデルの社会実装とインフラ構築--岩手版（地方版）デザイン経営モデルと支援システムの確立	近藤　信一	(地独)岩手県工業技術センター	令和2年4月～令和3年3月
5	海洋プラスチック等海岸漂着物の市民参加による調査手法の開発に関する研究	渋谷　晃太郎	岩手県	令和2年4月～令和3年3月
6	"スマート・ビレッジ"九戸村の実現に向けた課題抽出とソリューションの模索	高嶋　裕一	九戸村	令和2年8月～令和3年3月
7	ふるさと環境学習に資するESDプログラムの構築と試行	辻　　盛生	たきざわ環境パートナー会議	令和2年4月～令和3年3月
8	道の駅「青の国ふだい」の強み・ポテンシャル分析	新田　義修	普代村	令和2年8月～令和3年3月
9	再生可能エネルギーの地域貢献促進に関する研究	平井　勇介	環境パートナーシップいわて	令和2年4月～令和3年3月
10	東日本大震災の復旧・復興事業における津波防災施設の利活用に関する研究― 岩手県におけるインフラツーリズムを通じた防災意識の醸成―	三好　純矢	岩手県	令和2年4月～令和3年3月
11	盛岡広域圏の連携推進の調査研究	役重　眞喜子	盛岡市	令和2年8月～令和3年3月
12	政策評価に活用できる県民意識の分析プロセスの確立	山田　佳奈	岩手県	令和2年4月～令和3年3月
13	東日本大震災津波伝承館を拠点としたゲートウェイ機能に関する調査	山本　　健	東日本大震災津波伝承館	令和2年4月～令和3年3月
14	甲子柿の生産振興と地域活性化の展開手法の研究	吉野　英岐	釜石市	令和2年4月～令和3年3月

盛岡短期大学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	宴会における食品ロス削減に向けた教材「箸袋」の開発と効果の検証	浅沼　美由希	(株)バセロン	令和2年4月～令和3年3月
2	持続可能な医療通訳者派遣制度の構築に関する研究	石橋　敬太郎	奥州市・奥州市国際交流協会	令和2年8月～令和3年3月
3	いわて塩の道　野田街道の歴史と文化の検証	松本　博明	岩手県	令和2年8月～令和3年3月

宮古短期大学部

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	岩手産業文化センター:ドローン活用による地域活性化	岩田　　智	(一社)いわてドローン操縦士協会	令和2年8月～令和3年3月
2	震災後の多様なニーズに沿える観光モデルコースの設定	大志田　憲	(一社)宮古観光文化交流協会	令和2年4月～令和3年3月
3	農業の魅力や雇用力を向上させる新たな福利厚生システムの調査研究	平田　哲兵	岩手県	令和2年8月～令和3年3月
4	生徒、学生の考案による農水産物を活用した地域活性化	松田　　淳	岩手県立宮古水産高等学校	令和2年4月～令和3年3月

高等教育推進センター

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	連携・協働時代の学校と外部組織との連携に関する実践的研究	渡部　芳栄	八幡平市教育委員会・SoRaStars(株)	令和2年4月～令和3年3月

≪ステージⅡ:研究成果実装ステージ≫

※所属別、研究代表者 五十音順

	研 究 課 題	研究代表者	共同研究者・提案団体	研 究 期 間
1	岩手県における重層的見守りシステムの検討と構築	齋藤　昭彦（社会福祉学部）	岩手県保健福祉部地域福祉課	平成31年4月～令和3年3月
2	北いわてにおける生活支援型コミュニティづくり－中山間地域の持続可能な生活を実現する新たな社会技術の確立	齋藤　昭彦（社会福祉学部）	岩手県政策地域部地域振興室	平成31年4月～令和3年3月
3	両磐圏域における支援を要する子どもの支援ファイルの実用化と多機関連携	佐藤　匡仁（社会福祉学部）	一関市保健福祉部子育て支援センター	令和2年4月～令和4年3月
4	集落機能強化加算制度と人材マッチングシステムのドッキングによる中山間地域における課題解決実践モデルの構築	菅野　道生（社会福祉学部）	北股地区振興会	令和2年4月～令和4年3月
5	中小縫製企業のIoTやAIなど新技術活用による経営基盤強化と女性の雇用拡大－県内縫製業企業での実証とプロトタイプ開発、そして全国普及版システムの開発	植竹　俊文（ソフトウェア情報学部）	(一社)北いわてアパレル産業振興会・岩手県県北広域振興局	令和2年4月～令和4年3月
6	若者への自殺予防を見据えたSNS相談の地域版ゲートづくり　―自殺予防を見据えた取組み―	富澤　浩樹（ソフトウェア情報学部）	盛岡市保健所保健予防課	平成31年4月～令和3年3月
7	被災者生活再建と持続発展する地域コミュニティ形成のモデル創造としての「内陸災害公営住宅・南青山アパート」の建設・管理・運営における実践研究	倉原　宗孝（総合政策学部）	岩手県・もりおか復興支援センター	令和2年4月～令和4年3月

科学研究費助成事業

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」です。ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行います。

本学では、応募申請に対する支援体制を整えるなど、採択率向上に向けた取組を行っています。

詳細はこちらから

科学研究費助成事業データベース「研究機関」に「岩手県立大学」と入力して検索。

看護学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	挙児を希望する有配偶女性に対するリプロダクティブライフプランニング支援の構築	アンガホッファ 司寿子
2	基盤研究(C)(基金)	慢性呼吸器疾患を併存する糖尿病患者のセルフケアを支援するための援助指針の開発	内海　香子
3	基盤研究(C)(基金)	学習者中心パラダイムに基づく看護人材育成のための自己点検支援ポータル開発	遠藤　良仁
4	基盤研究(C)(基金)	特別支援学校以外の学校における医療的ケア必要児童生徒への支援システムモデルの構築	大久保　牧子
5	基盤研究(C)(基金)	訪問看護ステーションと自治体との連携を強化するための研修プログラムの開発	工藤　朋子
6	基盤研究(C)(基金)	コアコンピテンシーを学修目標とした看護学実習アセスメントのシステム開発	工藤　真由美
7	基盤研究(C)(基金)	油性徐放性製剤の筋肉内注射により発生する硬結を予防するための看護ケア方法の確立	高橋　有里
8	基盤研究(C)(基金)	児童養護施設思春期女子へのリプロダクティブ・ヘルスケアモデルの構築と汎用化	福島　裕子
9	基盤研究(C)(基金)	終末期がん患者の倦怠感軽減ケアプログラムの開発と臨床応用	細川　舞
10	基盤研究(C)(基金)	内分泌療法を受ける乳がん女性へのセクシュアル・ヘルスケアモデルの開発と評価	谷地　和加子
11	若手研究(基金)	新任期保健師の内発的動機付けを促すピアサポートシステムの構築	尾無　徹
12	若手研究(基金)	地域に根ざした小児在宅ケアに向けた看護職の協働促進モデルの構築	原　瑞恵

社会福祉学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	障害者雇用における障害者に対する合理的配慮提供モデルの構築	小澤　昭彦
2	基盤研究(C)(基金)	Clutter Image Rating 日本語版の得点と生活支障度の関連	川乗　賀也
3	基盤研究(C)(基金)	非正規雇用スクールソーシャルワーカーはどう学ぶか―専門性形成と実践コミュニティ	櫻　幸恵
4	基盤研究(C)(基金)	参加型評価アプローチによる小地域を基盤とした「地域福祉形成力」評価モデルの開発	佐藤　哲郎
5	基盤研究(C)(基金)	地域を基盤とした住民・専門職協働による【地域福祉実践】参加型評価法の開発	佐藤　哲郎
6	基盤研究(C)(基金)	自閉スペクトラム症幼児の就学前教育・保育施設における園生活リスクとリスク評価分類	佐藤　匡仁
7	基盤研究(C)(基金)	集団的アプローチにもとづく漫画動画を利用したストレスマネジメント介入の評価研究	堀内　聡
8	若手研究(B)(基金)	自主防災組織の形成にみる選択とその論理-住民の日常的営為に着目して	庄司　知恵子
9	若手研究(基金)	災害派遣福祉チームによる被災地でのソーシャルワーカー活動モデルの開発に関する研究	伊藤　隆博
10	若手研究(基金)	中山間地域等における子ども虐待対応の調整機能強化に関する研究	實方　由佳
11	若手研究(基金)	シェアリングエコノミーにおける個人請負就労者の労働者保護の範囲に関する研究	柴田　徹平
12	若手研究(基金)	トランスナショナルな福祉サービス供給体制の構築	日野原　由未
13	挑戦的研究(萌芽)(基金)	ソーシャルワーカー(社会福祉士)養成教育に対するエスノメソドロジー導入効果の研究	藤田　徹
14	研究活動スタート支援(基金)	トラウマに関するしろうと理論に着目した予防的心理教育の要因の解明	瀧井　美緒

ソフトウェア情報学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	野外ミュージアムの特質を踏まえたデジタルマーケティング手法の実践的研究	阿部　昭博
2	基盤研究(C)(基金)	高大連携による情報科の「モデル化とシミュレーション」教育のデザインに関する研究	市川　尚
3	基盤研究(C)(基金)	方言音声のビデオアーカイブ化と方言音声理解のための情報処理技術の確立	伊藤　慶明
4	基盤研究(C)(基金)	大規模災害の復興過程における経済支援政策シミュレータの開発	後藤　裕介
5	基盤研究(C)(基金)	近未来型VRライブ配信環境におけるコミュニケーション支援システムの開発	齊藤　義仰
6	基盤研究(C)(基金)	プラス要因・マイナス要因を考慮した実時間型観光スポット推薦システムの研究	佐々木　淳
7	基盤研究(C)(基金)	視聴覚運動知覚の脳内表現の解明	眞田　尚久
8	基盤研究(C)(基金)	主体的な学びの促進と項目プールの構築を目指す次世代作問学習支援システムの研究	高木　正則
9	基盤研究(C)(基金)	教育から始める人間中心のセキュリティ対策手法	高田　豊雄
10	基盤研究(C)(基金)	Development of Fast and Highly Effective Feature Subset Selection Algorithms based on Novel Integration of Quantum Computing and Machine Learning	チャクラボルティ　バサビ
11	基盤研究(C)(基金)	震災関連資料の利用促進を目的とした資料循環型デジタルアーカイビングシステムの研究	富澤　浩樹
12	基盤研究(C)(基金)	家の中のアフォーダンスの可視化:乳幼児の事故予防・発達のためのデータ活用基盤構築	西﨑　実穂
13	基盤研究(C)(基金)	Healthcare Risk Prediction on Data Streams Employing Cross Ensemble Deep Learning	藤田　ハミド
14	基盤研究(C)(基金)	実用的単眼プロジェクター型・多視点3D球体ディスプレイの開発	PRIMA・OKY・DICKY
15	基盤研究(C)(基金)	郷土芸能伝承のための「個」「集団」の「上手さ」の分析・可視化に関する研究	松田　浩一
16	若手研究(B)(基金)	SS超音波を用いた人・ロボットの屋内位置情報計測・蓄積システム	鈴木　彰真
17	挑戦的研究(萌芽)(基金)	歌舞伎の物語生成―多重物語構造・型・芸能情報システムに基づく調査と構成―	小方　孝
18	研究活動スタート支援(基金)	ICTを活用した数学実験・実験数学による生徒の主体性の涵養の試み	田村　篤史

総合政策学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(B)(補助金)	復興の新たな段階におけるコミュニティ・キャピタルの活用と保全に関する比較研究	吉野　英岐
2	基盤研究(C)(基金)	模擬投票を活用した主権者教育プログラムの開発とその普及に関する実践的研究	市島　宗典
3	基盤研究(C)(基金)	オンライン取引における「場の提供者」の法的責任	窪　幸治
4	基盤研究(C)(基金)	防災と福祉を結ぶ(逃げる視点からの)参加のまちづくりの実践活動とモデル・理論構築	倉原　宗孝
5	基盤研究(C)(基金)	不完備選好と意思決定理論の諸分野の関連に注目した理論的分析とその応用	小井田　伸雄
6	基盤研究(C)(基金)	東日本大震災津波被災地における水産加工業の協業化による水産業クラスターの新展開	新田　義修
7	基盤研究(C)(基金)	震災被災地の「日常の再構築」過程における意識調査:地域社会の分断・格差に着目して	堀篭　義裕
8	若手研究(B)(基金)	開発経験からみる環境保全型地域づくりの論理	平井　勇介
9	若手研究(基金)	社会ネットワークの多次元属性に基づく職業異類結合の実態・要因解明	鈴木　伸生
10	研究活動スタート支援(基金)	集団における社会関係資本の構成要素―機能間の循環的相互作用メカニズムの解明	鈴木　伸生

盛岡短期大学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	折口信夫旧蔵資料の分析・評価とその成果活用による同時代文学の資料学的研究	松本　博明
2	基盤研究(C)(基金)	有賀同族団論の再検討:歴史社会学とコモンズ論の観点から	三須田　善暢

宮古短期大学部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	東北地方北部地域の方言アクセント区画に関する研究	田中　宣廣
2	若手研究(基金)	製品機能のオーバーシュートに関する経験的研究	鈴木　将人

高等教育推進センター

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	日ロ領土問題における千島の戦争とその記憶について	黒岩　幸子
2	基盤研究(C)(基金)	可能動詞化の方言横断的多様性とその知識の獲得に関する理論的・実証的研究	高橋　英也
3	基盤研究(C)(基金)	米国フェミニズムにおける多様性概念の形成とプエルトリカンのジェンダー	三宅　禎子
4	基盤研究(C)(基金)	On Raising from NP--One Rule of English Grammar and Its Theoretical Implications	ルプシャ　コルネリア
5	若手研究(B)(基金)	単元学習・プロジェクト型学習・新教科開発に見る教師の「カリキュラム意識」の研究	畠山　大

研究・地域連携本部

※研究種目別、研究代表者 五十音順

	研 究 種 目	研究課題	本学における研究代表者
1	基盤研究(C)(基金)	IoTセンサ群を利用した次世代広域道路状況情報プラットフォームに関する研究	柴田　義孝
2	基盤研究(C)(基金)	健足同期制御高機能義足の開発	村田　嘉利
3	基盤研究(C)(基金)	エスカレーター内の歩行特性と安全性・快適性に関する基礎研究	元田　良孝
4	若手研究(基金)	豪雪寒冷地域を対象としたインテリジェント道路状況監視IoTシステムの研究開発	櫻庭　彬

令和２年度教育の活動状況

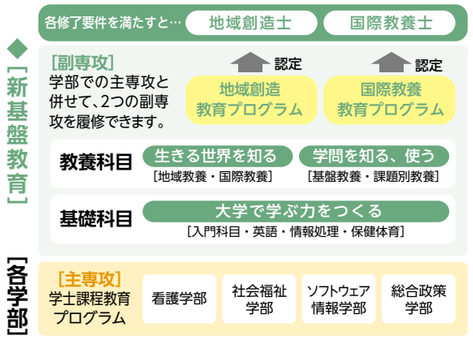
２つの副専攻が織り成す“グローカル”な学び

基盤教育科目と副専攻

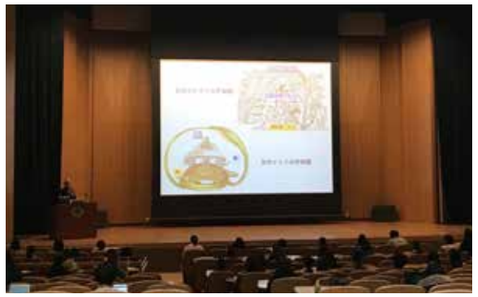
令和２年度、基盤教育カリキュラムが新しくなったと同時に、本学の建学の理念において「地域社会への貢献」と同等に重要視されている「国際社会への貢献」のさらなる実現に向け、副専攻教育も新しくなりました。

副専攻とは、各学部の専門性を生かしながら、それ以外の分野の知識を学ぶ、学部の枠を越えた学修制度です。本学では、平成28年度に副専攻「いわて創造教育プログラム」を新設し、修了要件を満たした学生に「いわて創造士」の称号を授与してきました。平成30年度には初の「いわて創造士」を４名輩出、その後も令和元年度に11名、令和２年度に６名と、これまでに計21名の学生が「いわて創造士」となりました。

そして、令和２年度からは、世界を「地域」と「国際」という視点から理解し、実践的な考え方を体系的に学ぶ２つの副専攻を履修することができるようになりました。この２つの副専攻を通し、岩手を知り世界とつながる、グローバルでローカルな学びを展開していきます。



新たな副専攻「国際教養教育プログラム」がスタート


グローバル理解入門授業の様子

令和２年度、新たな副専攻「国際教養教育プログラム」がスタートしました。この副専攻は、グローバル化していく世界を多面的に理解し、その世界で行動できる主体としての力の育成を目的としています。修了要件を満たした学生には「国際教養士」の称号が授与されます。

当該副専攻のコア科目として新たに開講した「グローバル理解入門」では、実際に多方面でグローバルに活動されている方々による講義を実施しました。その中で、盛岡市出身の映画監督・大友啓史氏からは、ローカルな視点を突き詰めた先に見えるグローバルな問題やコミュニケーションのあり方について、海外での作品づくりで得られた経験に基づきお話しいただきました。

令和３年度以降、多言語の習得を目指しながら、さまざまな視点から国際社会や国際文化を学べる科目や国外での演習も視野に入れた科目などが新たに開講されていきます。

副専攻「いわて創造教育プログラム」から「地域創造教育プログラム」へ

令和２年度、副専攻「いわて創造教育プログラム」は、「地域創造教育プログラム」に名称を変更するとともに、修了生に与えられる称号名も「いわて創造士」から「地域創造士」に変更しました。また地域と強い関わりを持ちながらフィールドワークを企画・実践する「いわて創造学習Ⅰ」及び「いわて創造学習Ⅱ」を当該副専攻の必修科目に位置付けるとともに、修了要件単位数を12単位から16単位に変更し、当該副専攻の教育内容を強化しました。加えて、当該副専攻履修者が各学期終了時に学習成果を自己評価する「地域教養ルーブリック」を新たに開発し、運用を開始しました。

ここ数年で徐々に本学の副専攻の認知度が上がっており、履修を希望する学生数も増加傾向にあります。今後は「いわて創造士」となった学生・卒業生や地元就職者との協力の在り方を検討していきます。

いわて創造学習Ⅰ･Ⅱフィールドワークの様子

学び合い文化創造事業の展開

本学では、学内で学生の主体的な学修を醸成するための学修環境の整備に取り組んでいます。様々な学修の機会を学生に提供し、高等学校などでの「与えられた授業・課題をこなす」から、学士課程の「自ら学ぶ」への移行、さらに、将来的には異なる学年や異なる学部の学生同士が「学び合う」大学文化への展開を目指しています。

令和２年度は、ライブラリー・アテンダント（ＬＡ）※と職員の協働企画により、学生同士が対話を通じて学びを深めるイベント「学び合いカフェ」を２回開催しました。各回のテーマは「“働く”って何？」と「コロナ×人間関係」とし、ファシリテーターの教員を交えて自由に意見を交わしました。

また、令和元年度試行を経て、令和２年度本格実施を計画していた英会話交流事業「English Time」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、後期からの実施となりました。実施方法を対面からオンライン方式に変更し、滝沢キャンパス・宮古キャンパス同時開催としたことで、同じ目的を持つ学生同士のキャンパスを越えた交流が実現しました。

さらに、留学生と日本人学生の交流促進のため、図書館の隣にある「多目的スペース 風のモント」の一角に、学生が気軽に集うことができる空間「文化交流スペースStella」を設置しました。小さなスペースですが、学生は語学学習や留学関連の資料を自由に閲覧できるほか、多文化理解や語学のグループ学習や国際交流イベント等で活用しています。

※ライブラリー・アテンダント(LA)=図書館の利用案内、企画展示などを行う学生スタッフ

LAイベント「学び合いカフェ」

英会話交流事業「English Time」

文化交流スペースStella

海外留学支援奨励金事業の創設

本学では、語学力の向上、異文化体験による国際感覚の醸成と学修意欲の向上、海外大学との交流促進を目的とし、様々な「海外留学プログラム」を実施しています。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、海外渡航は困難な状況が続いていますが、オンラインを活用した新しい形を可能な限り提供しています。

令和２年度には、岩手県立大学海外留学支援奨励金事業を創設しました。経済上の事由により海外留学プログラムへの参加が困難な学生に対し、奨励金を支給することで、より多くの学生がプログラムに参加できるよう支援します。

プログラム名称	日程		派遣先	
【全学】短期海外研修　中国コース	夏季	２週間程度	中国	中国伝媒大学
【全学】短期海外研修　韓国コース		３週間程度	韓国	慶熙大学校
【全学】短期海外研修　スペインコース	春季	２～３週間程度	スペイン	アルカラ大学
【ソフトウェア情報学研究科】国際研究交流	夏季	２週間程度	アメリカ／ヨーロッパ	アッパーオーストリア応用科学大学等、協定校
【4大学部】語学研修I	春季	３週間程度	アメリカ	オハイオ大学付属英語学校
【看護学部】国際看護論演習	春季	２週間程度	アメリカ	ワシントン州立大学
【社会福祉学部】コミュニティ福祉サービス実習	夏季	１週間程度	韓国	福祉施設等
【社会福祉学部】ニュージーランド研修	春季	１週間程度	ニュージーランド	児童福祉施設、学校等
【総合政策学部】カセサート大学派遣	春季	10日間程度	タイ	カセサート大学
【盛岡短期大学部】国際文化理解演習I･Ⅱ　韓国コース	夏季	３週間程度	韓国	慶熙大学校
【盛岡短期大学部】国際文化理解演習I･Ⅱ　米国コース	夏季	３週間程度	アメリカ	オハイオ大学付属英語学校

令和３年度入学及び令和２年度卒業・就職の状況

令和３年度の入学者選抜の状況

岩手県立大学では、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な選抜区分により学生の募集を行っています。

令和３年度入学者選抜においては、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、社会人選抜などを実施し、実質倍率は4大学部で2.8倍（前年度比0.2ポイント減）、大学院で1.1倍（同0.1ポイント増）、盛岡短期大学部で1.3倍（同0.1ポイント減）、宮古短期大学部で1.5倍（同0.4ポイント増）となっています。

本学では、高大連携事業や入試広報活動を通じて、入学志願者の確保に努めるとともに、入試改善に取り組んでいます。

令和３年度入学者選抜結果

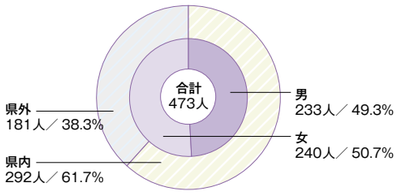
（単位：人、倍）

学　部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
看護学部	90	405	230	97	2.4
社会福祉学部	90	413	306	113	2.7
社会福祉学科	50	209	153	63	2.4
人間福祉学科	40	204	153	50	3.1
ソフトウェア情報学部	160	876	612	172	3.6
総合政策学部	100	290	231	116	2.0
計	**440**	**1,984**	**1,379**	**498**	**2.8**
学　部（編入学）	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
看護学部	10	6	6	2	3.0
社会福祉学部	10	13	13	9	1.4
社会福祉学科	5	6	6	3	2.0
人間福祉学科	5	7	7	6	1.2
ソフトウェア情報学部	10	22	21	13	1.6
総合政策学部	10	34	32	13	2.5
計	**40**	**75**	**72**	**37**	**1.9**
大学院	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
看護学研究科看護学専攻	13	5	5	5	1.0
社会福祉学研究科社会福祉学専攻	18	13	13	9	1.4
ソフトウェア情報学研究科ソフトウェア情報学専攻	50	46	45	43	1.0
総合政策研究科総合政策専攻	13	5	4	4	1.0
計	**94**	**66**	**64**	**58**	**1.1**
盛岡短期大学部	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
生活科学科	50	112	106	80	1.3
生活デザイン専攻	25	53	51	39	1.3
食物栄養学専攻	25	59	55	41	1.3
国際文化学科	50	135	129	95	1.4
計	**100**	**247**	**235**	**175**	**1.3**
宮古短期大学部	**募集人員**	**志願者数**	**受験者数**	**合格者数**	**実質倍率**
経営情報学科	**100**	**217**	**208**	**138**	**1.5**

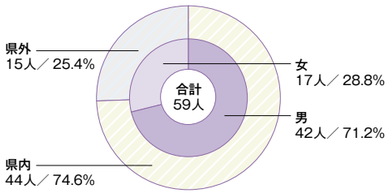
（注）実質倍率＝受験者数÷合格者数

令和３年度入学者の内訳

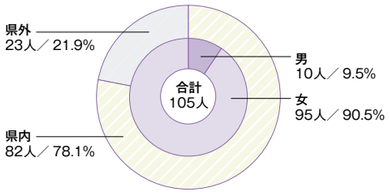
【学部】



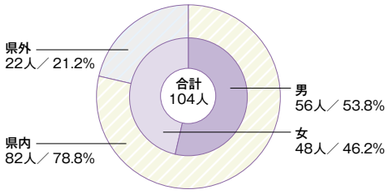
【大学院】



【盛岡短期大学部】



【宮古短期大学部】



高大連携の取組

本学では、高等学校と大学間の相互理解を促進し、意欲のある高校生が大学での学修に触れる機会を設けるため、様々な高大連携の取組を実施しています。

オープンキャンパスのほか、大学での学修内容に触れる機会として、高等学校への出張講義、大学でのサマーセミナー、ウインターセッション、高校生及び保護者を対象とした入試相談会を開催するとともに、随時各高等学校等からの大学見学を受け付け、大学の説明と施設の見学を実施しています。

これら大学見学や相談会などの際には、学生で構成する学生広報団体（キャンパス・アテンダント）が自身の体験談の発表やキャンパスガイドを行い、実際の学生の声が聞けるということで参加者から好評を得ています。

なお、令和２年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでのオープンキャンパス開催のほか、入試相談会も一部オンラインにより実施しています。

また、高等学校との連携を高めるため、岩手県高等学校長協会との懇談会、高大接続委員会、進路指導を担当する高等学校教員を対象とした高校教員大学説明会を開催し、本学の情報を提供するとともに、本学に対する高等学校からの意見や要望の聴取も行っています。

そのほか、県内の高校生を対象とした小論文コンクール等、高校生の文章能力向上等を目的とした取組も実施しています。

高校教員大学説明会

本学では、高等学校教員を対象とした説明会・大学見学会を開催しています。高校生を実際に指導している教員の方々に、本学の魅力・特徴等を理解してもらい、進路指導に役立ててもらうことが目的です。

本学や各学部の概要説明、入学者選抜についての説明を行い、キャンパス・アテンダントによる体験談発表とキャンパスガイドを実施しており、「各学部・学科の特色や入試の変更点について知ることができた」など参加者から好評を得ています。

高校教員大学説明会の様子

いわて高校生小論文コンクール

本学の入学試験では、多くの学部・入試区分で小論文を用いています。この小論文の作成を通して、県内の高校生に問題や課題を発見し、理解力、論理的思考、表現力、着眼の独創性などを身に付けてもらうことを目的に、毎年「いわて高校生小論文コンクール」を実施しています。

毎年度のテーマに沿った小論文を募集し、その中から最優秀賞、優秀賞、佳作、学校賞を選定するとともに、その結果や作品をホームページで公表しています。

令和２年度のテーマは「幸」で、401編の応募がありました。

コンクールのポスター

令和２年度の卒業者及び就職の状況

令和2年度の卒業者は、4大学部454人、大学院修了者51人、盛岡短期大学部100人、宮古短期大学部98人で計703人でした。

卒業者の進路は、4大学部は、就職内定者390人（うち県内161人、県外229人）、大学院等進学39人、その他12人。盛岡短期大学部は、就職内定者62人（うち県内45人、県外17人）、進学者30人、その他3人。宮古短期大学部は、就職内定者53人（うち県内33人、県外20人）、進学者31人、その他7人でした。

就職内定率は、4大学部96.8％、盛岡短期大学部92.5％、宮古短期大学部88.3％でした。

令和２年度の卒業者の状況

令和3年3月卒業生における数値（単位：人）

学部	看護学部	社会福祉学部	ソフトウェア情報学部	総合政策学部	合計
卒業者	89	103	152	110	454
就職希望者	86（96.6）	97（94.2）	117（77.0）	103（93.6）	403(88.8)
就職内定者（うち県内）	86（39）	97（54）	109（18）	98（50）	390(161)
就職内定率	100%	100%	93.2%	95.1%	96.8%
進学者	2	5	31	1	39
その他	1	1	4	6	12

大学院修了者	看護学研究科		社会福祉学研究科		ソフトウェア情報学研究科		総合政策研究科		合計
	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	
	0	4	7	1	26	3	10	0	51

短大	盛岡短期大学部	宮古短期大学部
卒業者	100	98
就職希望者	67（67.0）	60（61.2）
就職内定者（うち県内）	62（45）	53（33）
就職内定率	92.5%	88.3%
進学者	30	31
その他	3	7

（注）「就職希望者」欄の（　）内の数字は、卒業者に対する就職希望者の割合
（注）「就職内定率」は就職希望者に対する就職内定者の割合であり、令和３年３月31日現在の内容を以て決定
（注）その他は、家事手伝い、進学・留学準備者、就業準備者等

就業力育成の取組

本学では、学生が県内企業の魅力や仕事の魅力を理解し、自らのキャリアや働くことの意味を早い段階から考えることを目的として、業界研究セミナーを開催しています。

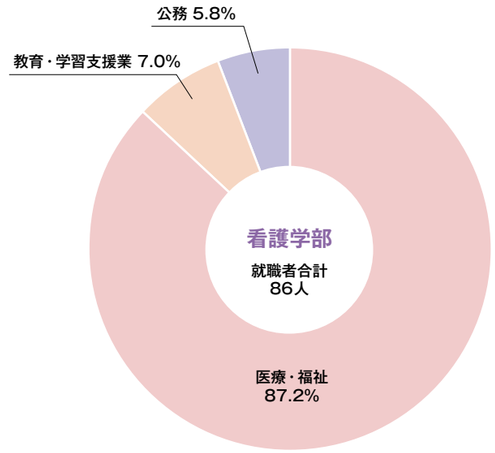
令和２年度は、いわてで働こう推進協議会との共催により、県内15事業所がオンラインにより参加し、滝沢、宮古キャンパス合計で191人の学生が参加しました。

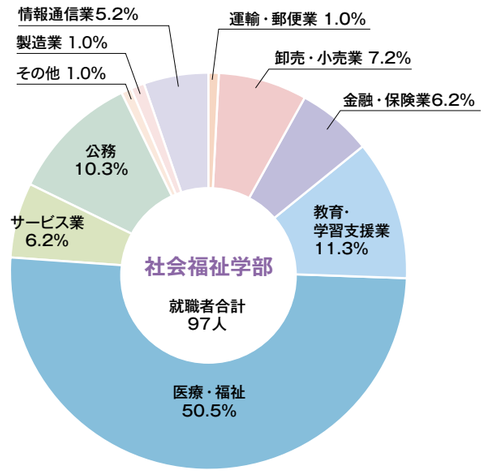
業界研究セミナーでは、県内企業等で働く卒業生などからアドバイスをもらったり、質問をしたりすることができ、社会人との関わりを通して、「職業観」、「ビジネスマナー実践」、「職業選択基準の明確化」等における資質の向上を図っています。

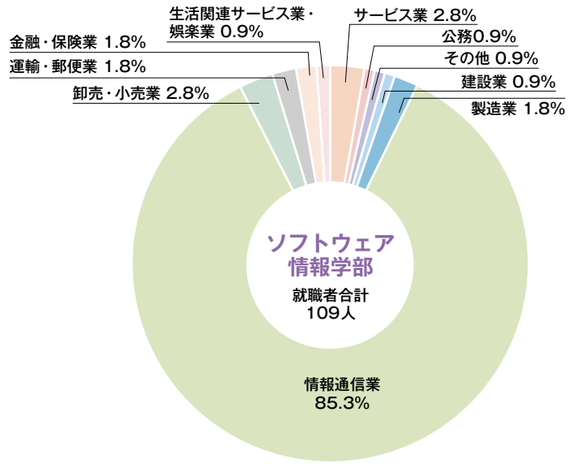
また、本学では、学生が就職活動を行う上で必要なスキルを明示した、本学独自の「就職活動ロードマップ」を新たに作成し、学生の自律的な就職活動の促進にも力を入れています。

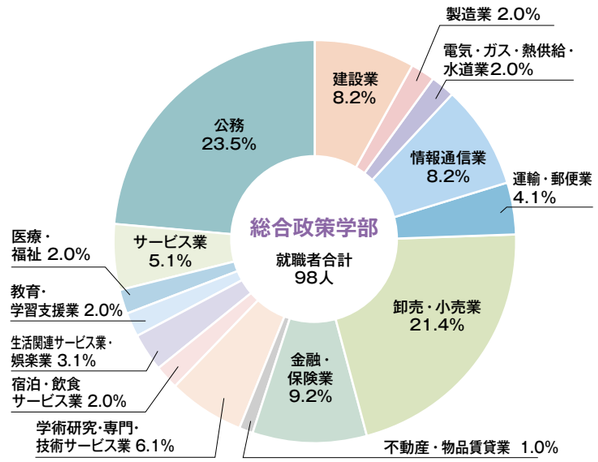
業界研究セミナーの様子（令和2年12月2日）

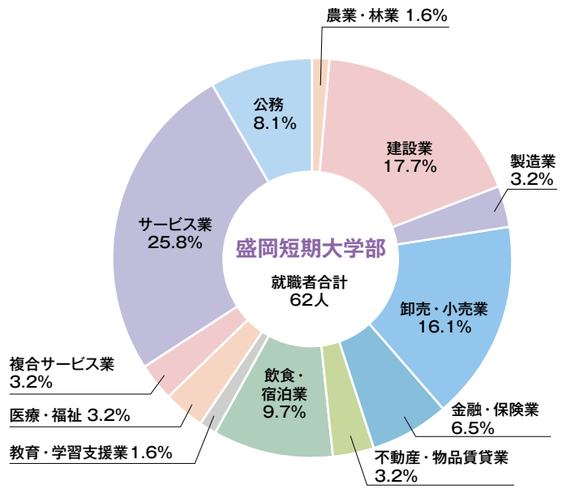
令和２年度卒業生の主な就職内定先

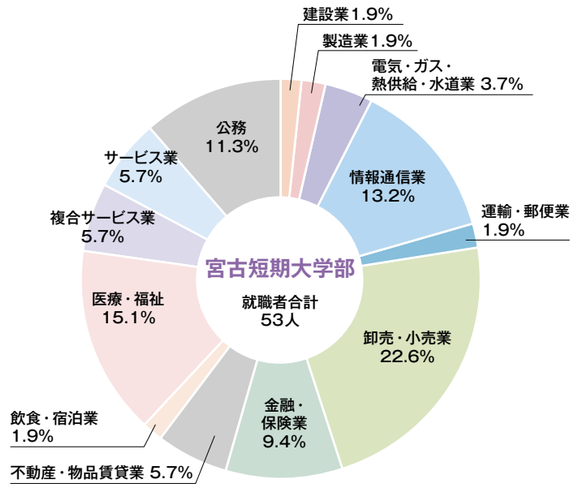












令和２年度財務状況

多様な資金の獲得と効果的な大学運営

令和２年度は、前年度に引き続き、競争的資金や受託研究費、共同研究費の獲得に努めたほか、積極的に国の補助金や受託事業を活用し、地域における産学共同研究事業や学生の就職支援事業、次世代の人材育成業務などに取り組みました。このほか、事業内容の見直しや重点化に努め、事務事業の効率化を図りながらコスト削減に取り組む一方で、今年度も目的積立金を財源とした「学長特別枠」を設け、教育の質の向上に資する事業に対し計画的に予算を配分し、教育・研究活動の充実・強化に努めました。

岩手県立大学の財務状況（令和3年3月31日現在）

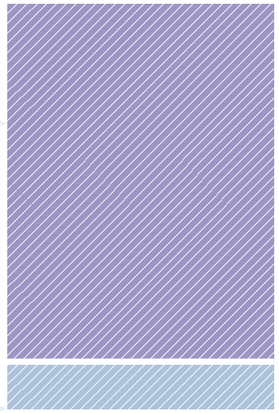
資　産

Ⅰ 固定資産
19,953,125 千円

岩手県立大学の建物や土地、機械装置、車両、図書などの資産
(内訳)
有形固定資産 19,830,462千円
無形固定資産 46,893千円
投資その他の資産 75,770千円

Ⅱ 流動資産
3,118,994 千円

預金や重油等、貯蔵品などの資産



資産合計
23,072,120 千円

負債・純資産

負債・純資産合計
23,072,120 千円

負債
3,116,546 千円

資産見返負債※、長期未払金や未払金
(内訳)
固定負債 2,414,056千円
流動負債 702,489千円

純資産
19,955,573 千円

資本金や教育研究・施設環境充実のための積立金などの資本
(内訳)
資本金 32,679,099 千円
資本剰余金△15,134,760 千円
利益剰余金 2,411,235 千円

※資産見返負債とは、法人が固定資産を継承・取得した場合に、当該資産の見返りとして同額を負債に計上し、減価償却処理により費用が発生する都度、取崩して収益化する、減価償却による損益計算への影響を与えないための公立大学法人特有の処理です。　(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和２年度の収支状況〈収入〉

岩手県立大学における収入の62.4%は、岩手県からの運営費交付金です。授業料、入学金及び検定料、産学連携等研究収益等から資産見返負債戻入を除いた自主財源の割合は35.0%です。

項 目	金額(千円)	割合(%)	備 考
運営費交付金	3,780,907	62.4	県から運営費として交付されたもの
授業料	1,213,717	20.0	大学独自の収入（自主財源）
入学金及び検定料	233,067	3.8	
産学連携等研究収益	39,690	0.7	企業や団体から委託された研究及び事業における収入
補助金等	374,785	6.2	施設等整備事業費補助金、寄付金等
寄付金	14,402	0.2	
資産見返負債戻入	156,115	2.6	
その他	91,489	1.5	
目的積立金取崩	156,696	2.6	
合計（A）	6,060,874		

令和２年度の収支状況〈支出〉

支出のうち、教育、研究等に係る経費はおよそ32.8%です。

項 目	金額(千円)	割合(%)	備 考
教育経費	1,272,530	22.5	大学教育及び研究等に係る経費
研究経費	455,500	8.1	
教育研究支援経費	123,936	2.2	
産学連携等研究経費	38,553	0.7	企業や団体から委託された研究及び事業に係る経費
役員人件費	15,955	0.3	役員、教員、非常勤講師及び事務局等の職員人件費
教員人件費	2,413,434	42.7	
職員人件費	832,265	14.7	
一般管理費等	495,540	8.8	光熱水費、修繕費、消耗品費等
合計（B）	5,647,721		

※資産見返負債戻入とは、資産見返負債から資産減価償却額の見合いを収益化したものです。
(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

令和２年度収支（A-B）　413,153 千円

学生及び教員一人あたりにかかる経費［令和２年度］

令和２年度の大学教育及び研究等における経費は、岩手県立大学全体で損益経常費用合計56億4,772万円でした。教育経費と教育研究支援経費、教員人件費の一部を含めた、学生一人あたりの教育経費は約101万円です。また、教員一人あたりの研究経費は約220万円です。

大学教育及び研究等にかかる経費

総計
4,265,400千円

教育経費 …… 1,272,530千円
研究経費 …… 455,500千円
教育研究支援経費 …… 123,936千円
教員人件費 …… 2,413,434千円

学生一人あたりの教育経費

教育経費総計
2,541,215千円

内訳
教育経費…… 1,272,530千円
教育研究支援経費×1/2…… 61,968千円
教員人件費×1/2※2…… 1,206,717千円

÷

→

内訳
岩手県立大学（大学院含む）……2,096人
盛岡短期大学部 ……214人
宮古短期大学部 ……209人

※2　教員は教育と研究を行うため、教育に係る人件費を 1/2 としました。

教員一人あたりの研究経費

研究経費総計
517,468千円

内訳
研究経費…… 455,500千円
教育研究支援経費×1/2…… 61,968千円

÷

→

(注)端数処理を行っているため、合計値が合わない場合があります。

column　岩手県立大学未来創造基金

本学では、開学20周年を機に、大学の運営を安定化させ、教育研究活動等を更に充実させていくための財源として、平成28年4月に「岩手県立大学未来創造基金」を設置しました。

本基金は趣旨に賛同していただける個人、法人、団体等の皆様からの寄附金(1口1,000円)及びその運用益をもって構成するものであり、次の事業に充てることとしています。

○教育及び研究活動の充実を図るために必要な事業
○学生及び外国人留学生に対する支援事業
○産学官連携及び地域・社会貢献に係る活動を推進するために必要な事業
○被災地の復興を支援するために必要な事業
○施設整備及び大学運営等の充実を図るために必要な事業

これまでにいただいた寄附金は、学内のアスレチック設備の充実や構内の外灯設置などに活用しています。

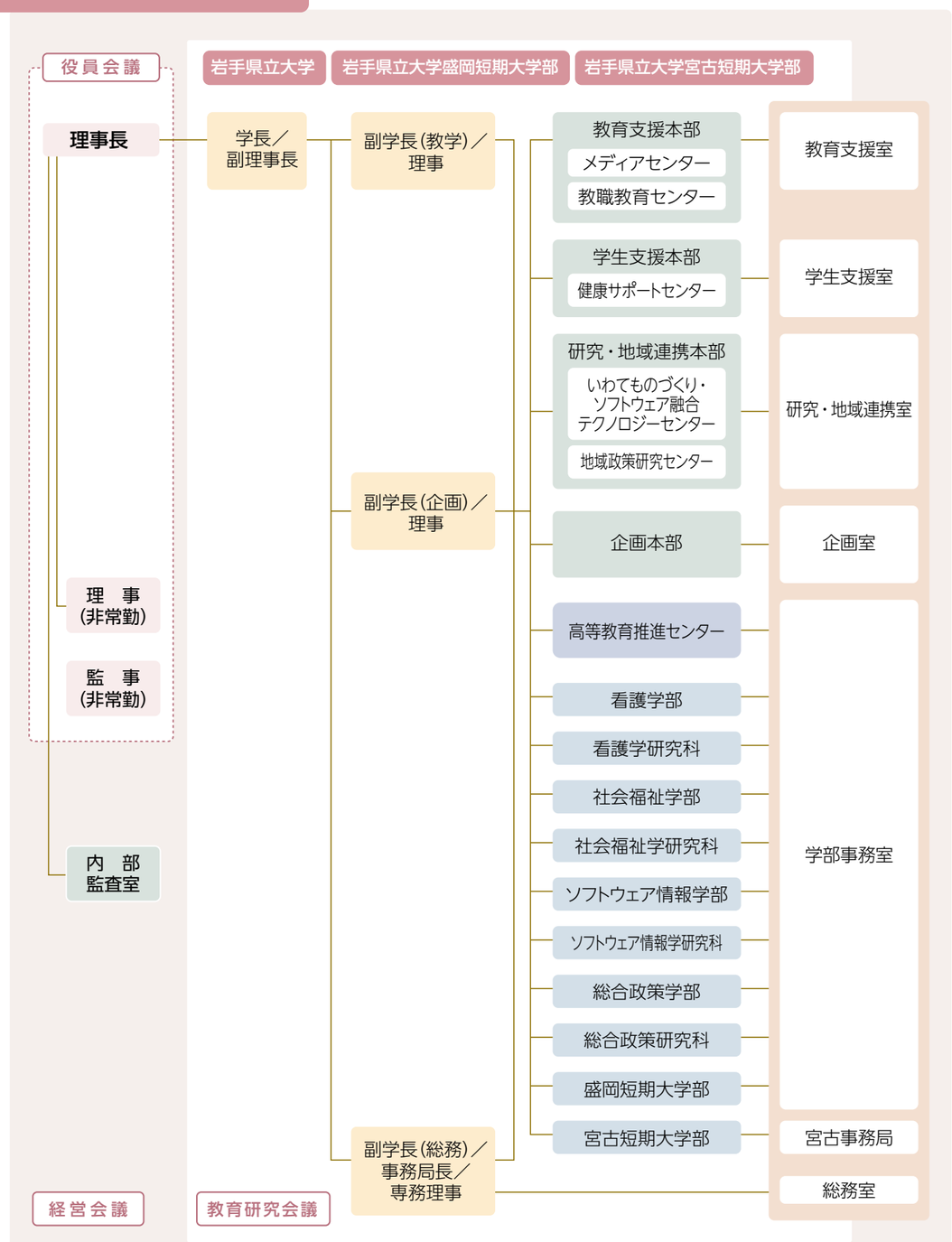
今後も、地域に根ざす大学として、本基金を活用しながらいわての未来づくりに貢献する人材育成と地域に貢献する取組をさらに広げていきたいと考えておりますので、皆様の御理解と御支援をよろしくお願いします。

トレーニング室に設置されたトレッドミル

構内に設置された外灯

組織図・役職員

公立大学法人岩手県立大学



役員

公立大学法人岩手県立大学

理事長
千　葉　茂　樹

副理事長
鈴　木　厚　人

専務理事
宮　野　孝　志

理事
石　堂　　淳

理事
狩　野　　徹

理事（非常勤）
藤　村　文　昭

理事（非常勤）
小　原　　忍

監事（非常勤）
桝　田　裕　之

監事（非常勤）
三　河　春　彦

岩手県立大学	岩手県立大学盛岡短期大学部	岩手県立大学宮古短期大学部
学長 鈴　木　厚　人		
副学長（教学）／高等教育推進センター長 石　堂　　淳		
副学長（企画）／研究・地域連携本部長 狩　野　　徹		
副学長（総務）／事務局長 宮　野　孝　志		
教育支援本部長 猪　股　俊　光		
学生支援本部長 三　上　邦　彦		
企画本部長 橋　本　浩　二		
看護学部長 看護学研究科長 福　島　裕　子	盛岡短期大学部長 川　﨑　雅　志	宮古短期大学部長 松　田　　淳
社会福祉学部長 社会福祉学研究科長 高　橋　　聡		
ソフトウェア情報学部長 ソフトウェア情報学研究科長 亀　田　昌　志		
総合政策学部長 総合政策研究科長 高　嶋　裕　一		

理事長
千葉 茂樹

副理事長／学長
鈴木 厚人

理事／副学長（教学）／高等教育推進センター長
石堂 淳

理事／副学長（企画）／研究・地域連携本部長
狩野 徹

専務理事／副学長（総務）／事務局長
宮野　孝志

教育支援本部長
猪股 俊光

学生支援本部長
三上　邦彦

企画本部長
橋本 浩二

看護学部長
看護学研究科長
福島 裕子

社会福祉学部長
社会福祉学研究科長
高橋 聡

ソフトウェア情報学部長
ソフトウェア情報学研究科長
亀田 昌志

総合政策学部長
総合政策研究科長
高嶋 裕一

盛岡短期大学部長
川﨑　雅志

宮古短期大学部長
松田 淳

※令和3年5月1日現在

教職員数

	岩手県立大学	岩手県立大学盛岡短期大学部	岩手県立大学宮古短期大学部
教　　授	59	5	4
准 教 授	69	9	5
講　　師	41	6	6
助　　教	13	2	0
助　　手	13	1	0
研究員等	4	0	0
教 員 計	**199**	**23**	**15**
職　　員	167		
教職員計	**404**		

滝沢キャンパス

看護学部・社会福祉学部・ソフトウェア情報学部・
総合政策学部・盛岡短期大学部・高等教育推進センター・
看護学研究科・社会福祉学研究科・ソフトウェア情報学研究科・
総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子 152-52
TEL 019-694-2000　FAX 019-694-2001
〈施設概要〉敷地面積（実　測）35.1ha
建物面積（延べ床）81,304㎡

地域連携棟（いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター、地域政策研究センター）
〒020-0611 岩手県滝沢市巣子 152-89
TEL 019-694-3330　FAX 019-694-3331

宮古キャンパス

宮古短期大学部

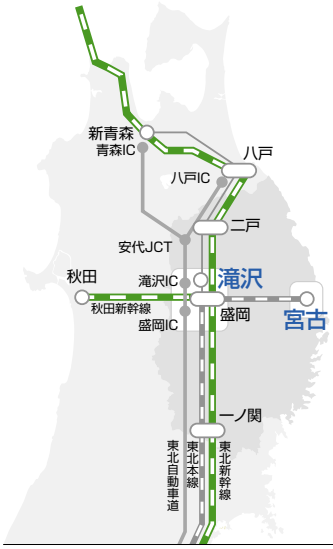
〒027-0039 岩手県宮古市河南 1-5-1
TEL 0193-64-2230　FAX 0193-64-2234
〈施設概要〉敷地面積（実　測）5.6ha
建物面積（延べ床）8,664 ㎡

アイーナキャンパス

サテライトキャンパス

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1
いわて県民情報交流センター（アイーナ）7 階
TEL 019-606-1770　FAX 019-606-1771
〈施設概要〉学習室、セミナー室等12室

岩手県立大学 アクセスマップ



滝沢キャンパスまでの経路

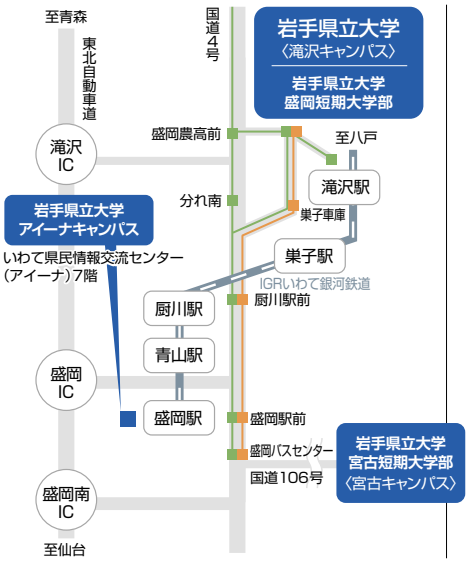
■バスで
岩手県交通「盛岡駅東口バス停②」から約40分、「県立大学前」バス停下車すぐ。

■鉄道で
IGRいわて銀河鉄道「盛岡駅」から15分、「滝沢駅」下車、徒歩約15分。
※「滝沢駅前」から「県立大学前」までの路線バスもあります。

■車で
東北自動車道「滝沢IC」から約5分（国道4号を青森方面へ出て、2つめの交差点を右折してすぐ）。

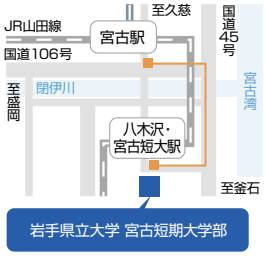
アイーナキャンパスまでの経路

盛岡駅西口から徒歩3分



宮古キャンパスまでの経路

盛岡から106急行バスまたはJR山田線で宮古駅まで約2時間。宮古駅バスのりば2番線から「B02八木沢循環」乗車、「宮古短大前」バス停下車すぐ。または宮古駅から三陸鉄道リアス線で「八木沢・宮古短大駅」下車徒歩15分。



岩手県立大学
Iwate Prefectural University

〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52
Tel019-694-2000　Fax019-694-2001
https://www.iwate-pu.ac.jp

詳しくはHPをご覧ください
岩手県立大学　検索